

❖ 科目名 Course Title			
社会の認識 日本におけるエスニックビジネスの発展			
❖ 担当教員 Instructor			
韓 載香			
❖ 開講学期 Semester	後期	❖ 対象学年 Year	1～
❖ 履修可能人数 Capacity	制限なし (対面)	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class	講義		

❖ キーワード Key Words	
論文の書き方、マイノリティ、エスニック、移民政策、ネットワーク、エスニック・コミュニティ	
❖ 授業の目的 Course Objectives	
❖ 授業概要 Course Description	
「日本のエスニックマイノリティビジネスの発展」をテーマに、論文作成の流れを理解し、執筆を通じて基本的トレーニングを行う。	
❖ 到達目標 Course Goals	
<p>論文執筆に必要な次の方法を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマの見つけ方に関する方法を学ぶ。</li> <li>・ 図書館利用の仕方を身に付ける</li> <li>・ 様々な情報の精査、研究史の整理、批判的書評を実践する。</li> <li>・ 引用と分析の違いを見分ける。</li> <li>・ 書く事の実践。</li> </ul>	
❖ 授業計画 Course Schedule	
<p>2016年のイギリスのEU脱退、アメリカの政権交代の一つの背景に移民の受入に関する従来の政策を巡って社会の否定的評価があると言われてしています。このような意見は移民が国内に与える負の経済的影響に基づいて出されたものです。欧米の先進諸国の第二次大戦後の経済発展のために受け入れられた外国人が労働者として重要な役割を果たしたことやEU経済圏のもとで進んできた労働力移動の活発化を考えると、近年の移民排斥の動きは、既存の政策の流れに転換点となることに違いありません。こうした国際的状況に対して、移民の経済的影響については評価が分かれています。また、その歴史的検証はまだ十分とは言えません。本講義では移民の経済活動に関する一断面について日本の民族集団の企業に注目して考えながら、論文作成の体験をします。</p> <p>具体的には日本の事例を取り上げます。日本においては、1980年代まで、外国人の受け入れや移民は制度的に厳しく制限されるなか、全人口に占める外国人の比率も低く抑えられてきました。こうした状況もあって日本のエスニック集団によるビジネスの展開については、それほど関心がもたれてきませんでした。本講義では、戦前から日本に定住し、戦後においても最大の民族集団としてビジネス展開をしてきた在日韓国・朝鮮人、そして1990年代以降の外国人の代表的事業の実態と、エスニック・マイノリティに関するいくつかの理論を学び、関連するテーマに基づいて論文を作成していきます。</p> <p>第1回 イントロダクション：論文を書くという実践  第2回 「問い」を見つける：エスニック・マイノリティの経済的役割の功罪  第3回 図書館を使いこなす  第4回 エスニック・マイノリティの経済活動に関する研究史の整理 課題1の提出（テーマ）  第5回 資料の整理・分析：日本の外国人①  第6回 資料の整理・分析：日本の外国人② 課題2の提出（資料・参考文献の収集）  第7回 政府機関の調査報告書の利用：アメリカのThe State of Minority Business Enterprises: An Overview of the 2007 Survey of Business Ownersの分析  第8回 先行研究の利用：日本のエスニック・ビジネス 在日韓国朝鮮人口 課題3の提出（サーベイ）  第9回 フィールドワーク実践：在日韓国朝鮮人と中国人のケース  第10回 オーラルヒストリ、伝記の活用：パチンコ産業のケース 課題4の提出（目次作成）  第11回 テーマと資料分析の組立：在日韓国・朝鮮人ビジネスの主体性</p>	

第12回	エスニック・ビジネスの理論の構築
第13回	発表
第14回	発表
第15回	発表
<b>❖成績評価Grading System</b>	
課題の提出 (20%)、論文の発表を行うこと (30%)、論文の提出 (50%)	
<b>❖テキストTextbooks</b>	
特になし。	
<b>❖参考書Reading List</b>	
日本語作文術 / 野内良三：中公新書, 2010, ISBN:9784121020567 創造的論文の書き方 / 伊丹敬之：有斐閣, 2001, ISBN:4641076499	
<b>❖準備学習Homework</b>	
論文作成のための課題として、図書館での調査をまとめること、指定図書や論文の該当部分を事前に読んでおくことなど、指示に従って行うこと。課題については初回に提示する。	
<b>❖オフィスアワーOffice Hour</b>	
<b>❖連絡先 (E-mail) E-mail</b>	
<b>❖質問・相談への対応方法Contact Information</b>	
<b>❖履修上の注意Notes</b>	
<b>❖備考Other Information</b>	

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外的人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで 履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。